

第8回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈られる。軽金属学会功労賞選考委員会（委員長 小林俊郎）の審査を経て平成18年2月23日（木）に開催された第73回理事会において慎重審議の結果、以下の3名の授賞を決定、社団法人軽金属学会第110回春期大会第1日目の5月13日（土）に北九州国際会議場において表彰式を挙行了した。

受賞者 岩田文夫 君 元 YKK 株式会社常務取締役東北工場長 昭和9年12月3日生（71才）

受賞理由



岩田文夫君は、YKK(株)で40年余りにわたって、アルミ建材や各種サッシに関わる製造技術、商品技術の指導や工場建設に従事し、技術開発の推進および後継者の育成に尽力した。特に東北工場の建設に当たっては、水公園のある緑の公園工場を目指し、工場の発展の礎を築いた。また、アルミニウム押出において実用化への数々の困難を克服し、押出加工の生産を軌道に乗せた。

昭和30年代、学生の時より軽金属研究会に関わる。そして東北大学で全国講演会が開催される時は進んで参加した。同時に工場見学等にも協力した。東北工場長として、寒冷地向けの断熱サッシの開発生産、販売の業務を統括推進した。また、アメリカのダブリンの建材工場建設の際は、担当責任工場として手腕を振り、ダブリン市の名誉市民に推戴された。

これらの業績が極めて顕著であると認め、第8回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 中野義信 君 宮越工芸株式会社 昭和30年4月19日生（50才）

受賞理由



中野義信君は、26年にわたりアルミニウム製品を中心としたビル建材・住宅建材のカーテンウォールやエクステリア製品塗装、自動車部品塗装に関する技術開発に携わってきた。特に、平成4年には皮膜処理から塗装まで一貫システムで行うふっ素樹脂塗装設備の立ち上げを中心的役割を担いながら推進した。

また軽金属学会北陸支部において、支部の活動に積極的に参加するとともに、北陸支部幹事として平成12年の全国大会の実行委員など、支部の運営にも12年間にわたり貢献した。中でもバブル崩壊後、北陸支部所属のアルミ業界の活動が停滞した際には、異業種企業の見学や講演会の開催など、進んで新しい企画を提案して支部活動の活性化に大きく貢献した。また、軽金属系学生の学習の一環として県内外の教育機関が催す工場見学会にも尽力され、軽金属技術に関わる後継者の育成にも心血を注いでいる。

これらの業績が極めて顕著であると認め、ここに第8回軽金属学会功労賞を贈る。

受賞者 井波隆夫 君 社団法人日本アルミニウム協会理事 昭和20年1月17日生（61歳）

受賞理由



井波隆夫君は、社団法人軽金属協会（現 社団法人日本アルミニウム協会）の職務のかたわら、永年にわたり軽金属学会の研究委員会をはじめ編集委員会および企画委員会の事務局として従事してきた。なかでも昭和53年から平成11年までの21年間、研究委員会の変遷とともに歩み、19の研究部会と15の分科会の運営面をよく支えてきた。その間、延べ600名余の委員がおよそ50課題の調査研究に取組んだが、研究委員会の事業活動を通して産学共同研究の活発化と研究者相互の交流を深めることに尽力した。

また、学会事務局の兼務を解かれる平成11年には、それまでの豊富な経験をもとに研究部会の自主運営マニュアルを作成し、学会事務局の人員減を補う対策を提案、実行するなど会の円滑な運営と発展に努めた。

これらの業績が極めて顕著であることを認め、ここに第8回軽金属学会功労賞を贈る。